

# 「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を振り返って

令和元年12月11日(水)

宮崎県立〇〇〇〇高等学校

英語科 〇〇〇〇

## 1. 授業実践(公開授業)を行って

公開授業では、コミュニケーション英語Ⅲの授業を通して、普段の教科書の1課分の授業を英語教育推進リーダー中央研修やパイロット教員研修で学んだことを生かし、かつ、新学習指導要領を踏まえた新しい試みを含めて活動をねらいに合わせて組み立ててみた。

### ①単語や表現のパラフレーズ活動

新出単語や表現を既習の単語や表現を使って理解したり説明したりする活動である。

### ②音読活動とディクテーション活動

CDに合わせて十分に音読練習をしたあと、個人で音読させたものを使って聞こえた表現をクラスメートに書き取らせる活動。グループでやるともっと効果的であることが分かった。

### ③内容理解のための会話文完成活動

本文の内容に合わせて、その本文について話し合っている2人の会話の空欄を埋めながら要約を完成させ、最終的には、会話を使ってペアで練習させる活動。これは時間がかかり、まだ改善の余地があった。

### ④意見交換活動

まずは本文の感想や意見を述べるようなオープンクエスチョン(答えが決まっていない質問)を生徒に投げかけ、その答え(意見)について生徒が頭で考えてから、ペアで意見を会話形式で言い合う。そしてグループで意見を交換しあう活動。これも時間が必要で、まだ改善の余地があるが、スピーキング活動には大いに有効だった。

## 2. 公開授業に参観された先生方のご指摘

以上のような活動を行ったところ、授業参観に来られた先生方から以下の観点でご指摘いただいた。

### ①主体的な学習

- 単語の定義を言わせるゲームもコミュニケーションの動機になる。単語のお題はペアで考えさせても良かったかも。
- 音読学習はやはり主体的な学習と言える。音読練習の前に、事前に音声面の指導をすることが大事である。十分に発音の練習の機会を与えるべきである。
- ディクテーションの音読モデルを生徒が行ったことは新鮮だった。生徒の声はみんなよく聞いている。しかし、CDを使って正確な発音を聞かせることが大事である。ディクテーションより、空欄を推測させる活動でもよかったのではなかろうか。
- 内容理解問題の空欄埋めは頭文字を与えると正解率が上がるので、入れてあげるとよい。
- 個人で話し合ったことや考えたことを全体で共有することで全体の学びにできる。個人→ペア→グループ→全体と活動を広げていくやり方は有効だと思う。
- 生徒に考える活動を与えていてよかった。
- 学ぶことに関心をもって取り組んでいた、粘り強く取り組んでいたのは生徒の力量であろう。
- もう少し活動を精選して活動数を絞れば、各活動の点検と確認ができて、学びが積み上がる。

### ②対話的な学習

- 画像を示しながらリテリングをする活動は対話的な学習になる。
- 対話形式で意見を言い合う活動は効果があった。
- 教師から生徒への前向きな声かけがあった。
- ペア活動だけでなく、グループワークもあったらよかった。

### ③深い学び

- 同一単語の言い換えやパラフレーズに気づかせる活動を取り入れているところは深い学びだ。
- 生徒の声を聞いた後にある単語の発音を見直したところは深かった。
- 対話の中に適語を入れて完成させるのは深い。
- 長文和訳を前もって生徒に配布し、4～5回内容を確認させたうえで、主体的・対話的活動をリンクさせていたことは効果的だった。
- ディスカッションの質問事項は、もっとオープンなものでよかったのでは。
- 本文の内容を踏まえて、自分の考えを示せるような発問がよかった。
- 必要な情報は前もってしっかり導入で示す必要がある。
- 会話の形を頭で定着するだけの時間がもっとあるとよかった。

まだまだ授業には改善の余地があるというご指摘もいただいたものの、新しい形の授業で感銘を受けたという感想も数々見られた。

### 3. 授業実践の反省と今後の展望

授業をもっとよくするために、以下の点(2L・2P・2S)を反省した上で、今後向上していくように努力する。

- ①正解までの論理的な道筋を生徒に示しているだろうか。(Logics)  
教師は「分からない生徒を放ってはおかない。分かるまで教える」という姿勢を示す。
- ②「なぜ答えがそうなるのか」を生徒に考えさせているか。(Logics)  
発問は授業で大事な生命線。生徒にどのような発問をするかで、生徒の技能向上に大きな影響を与えると信じている。授業前にしっかりと可能性のある発問をいくつか用意する。
- ③学習事項を繰り返し登場させているか。既習事項と新出事項をつなげているか。(Link)  
大事な文法事項などは何度も登場させ、生徒の学習機会を増やす工夫を指導案や授業の中に仕掛けたいと考える。新しい内容はすでに知っている内容とつなげると覚えやすい。
- ④音読をする前に正確な発音をさせているか。(Pronunciation)  
難しい発音が含まれる単語は、発音記号や中学校の基本単語を用いて、正確な発音を示してから、音読に入る。まだ音読が不明確なまま指導しているのではないかと自分を疑っている。
- ⑤言語の習得を辛抱強く見守ることができているか。(Patience)  
生徒の持っている既得の知識を引き出しながら、必然性のある場面で生きた言葉として繰り返し使用させることで、言語の世界が広がっていくという言語習得への前向きな期待感を持つことが大事だと思う。
- ⑥子供の学力をつけるためにも、「自分が勉強する姿勢」を見せる。(Self-study)  
まずは、他教科の勉強に興味・関心を持つ。(数学・地歴・国語の知識を英語とリンクさせる)そして検定や資格の取得などを通して、英語学習をさらに進める。(文法書・辞書・単語帳・英検1級・通訳案内士試験…)入念な教材研究を行い、指導技術を高めるために研修の機会をうかがい、可能だと分かれば現地に行って研修の場に混ぜてもらおう。学習意欲を高める方法がまだ不足しているので、研究しつづける。生徒にできるだけ多く成功体験を与えてあげることが大事である。
- ⑦同僚の先生方との意見交換からヒントをもらう。(Self-study)  
自分ないものを同僚の先生が持っている。自分より優れた技能を同僚の先生が持っている。それを情報源にして、自分の授業改善に反映させる。
- ⑧生徒が笑顔で受けられる授業を目指す。(Showmanship)  
授業のねらいや目標をどこに設定するか。どんな活動なら生徒は意欲的にやるか。一つの授業にひとつだけでも楽しくやれる活動が入っているか。数時間の授業の流れをどうスムーズに進めるか。毎日の常学習をどう設定するか。

今回のパイロット教員としての研修は、教科指導だけでなく、生徒指導の面でも向上が見られ、非常に有意義な活動だった。以上のことを努力するために、来年度もパイロットリーダー研修を生かした授業改善を展開していく。